寫眞週報

情報局編輯

十一月廿五日・第二百四十八號・十セン

昭和十三年二月十二日　第三種郵便物認可　昭和十七年十一月廿五日發行（每週一回水曜日發行）　第二百四十八號

片手で遊擊隊をうち拂ひ
片手で建設の槌を執り
同胞幾萬が
今日も戰つてゐる
大東亞戰も支那大陸から始つたのだ
忘れてはならない

「時の立札」は他へ轉載その他に御利用下さい

撮影　華北交通株式會社

雪の道に轍の跡も逞しく豊作の棉花を積んだ車は蜒蜿と續く

北支棉は躍進的

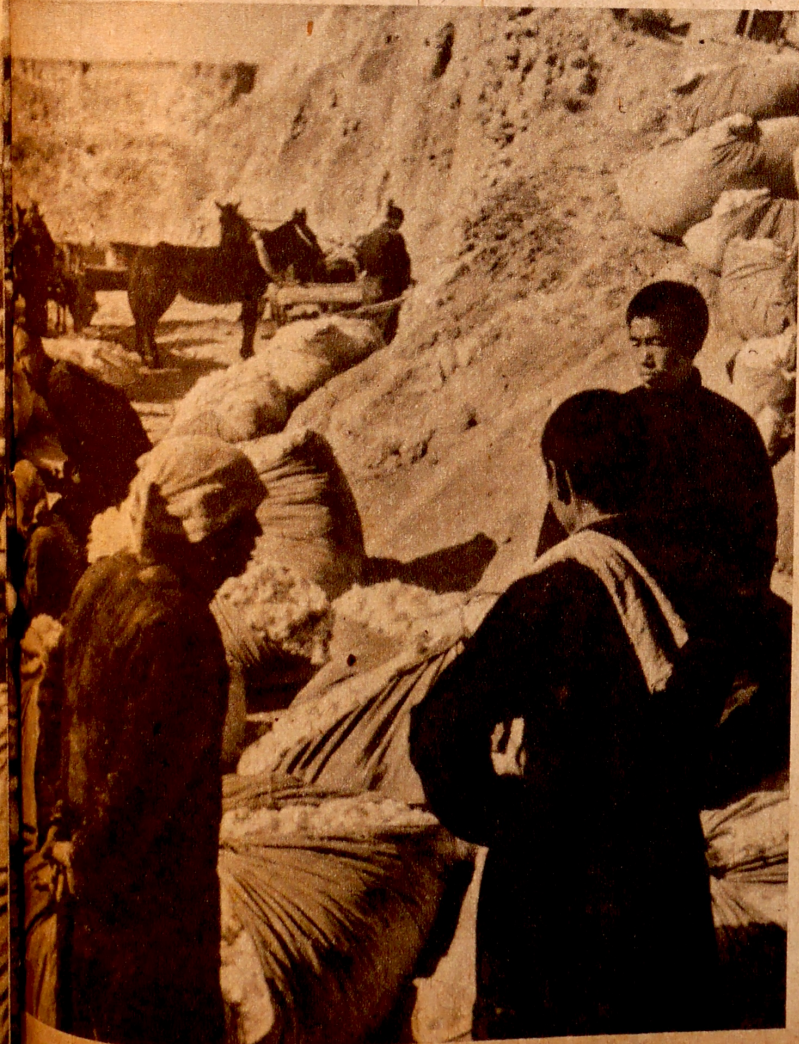
大陸建設も逞しく

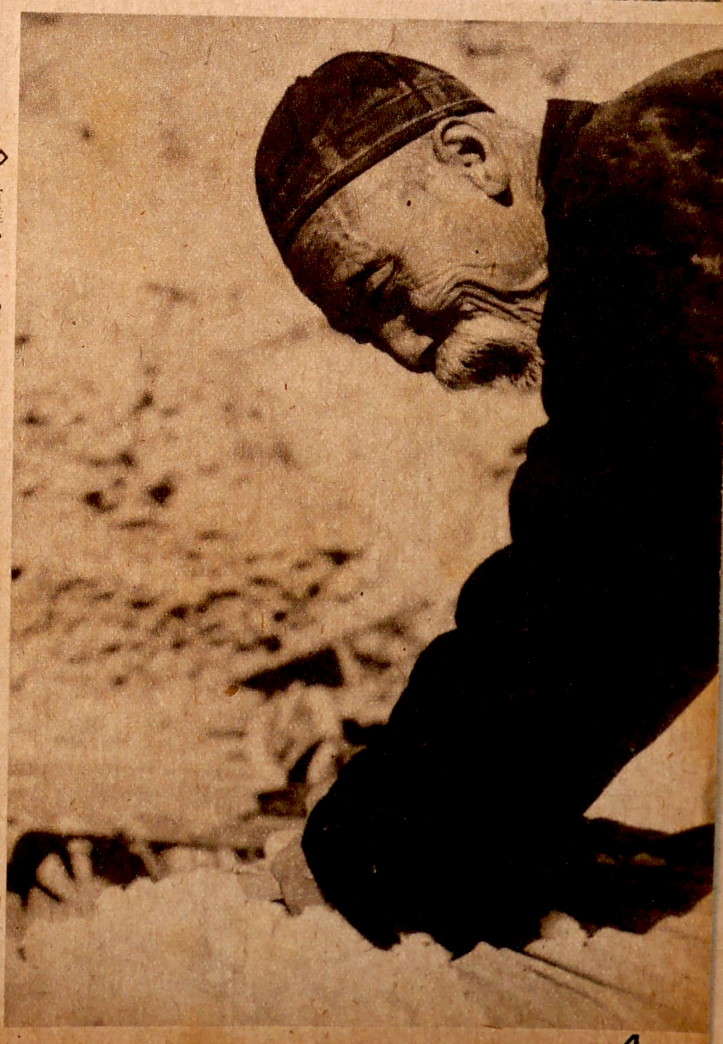
南に赫々たる戰果が擧がるなかに、新支那の經濟建設は着々と堅實な歩みを續けてゐる。この活潑な經濟建設の鼓動を北支に窺つてみよう

×　×

北支の農産資源のうちで最も重要なものは棉であらう。生産高からいつても支那棉は米國、インドに次いで世界第三位にある。しかし、事變前中支の棉とともに山西、河北、山東と北支三省で世界第三位の生産を受持つてゐた北支棉は、その後戰禍や旱

十月ともなれば棉の取入れが始まる

豊作だ！ ふくよかな棉の觸感に姑娘は喜色滿面

有難いことだ、こんなに澤山穫れて…老人の顔には明朗北支の姿が寫つてゐる

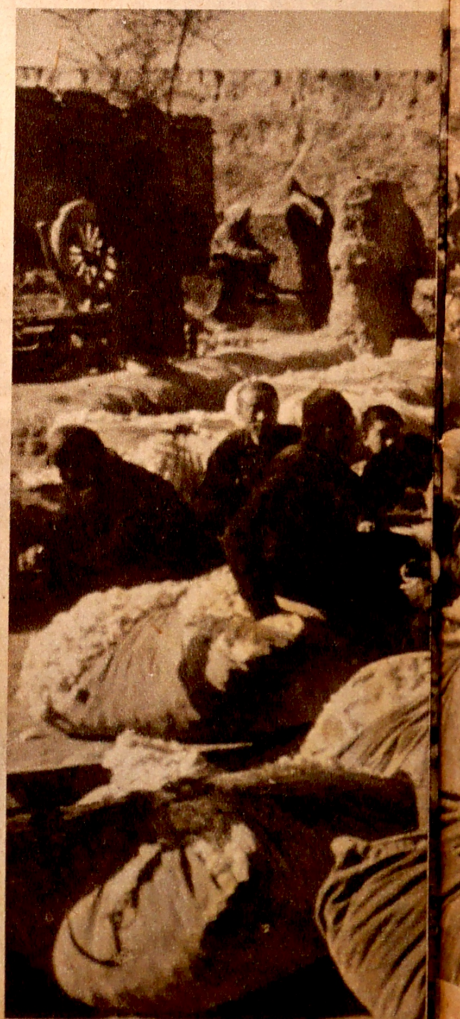
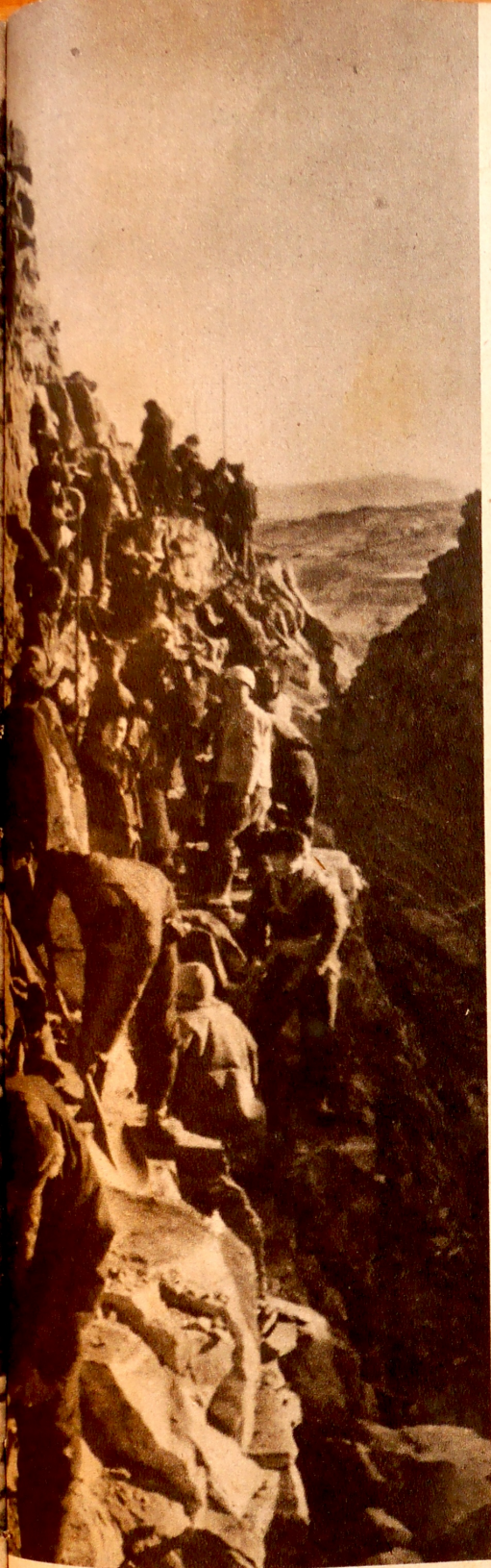
増産へ

撮影 華北交通株式會社

水害の難を蒙つて非常に減産した。だが華北政務委員會の治下、この棉花減産はそのまゝに放つて置かれはしなかつた。この對策としては棉花價格の調整や棉農の改善、華北交通株式會社の鐵路愛護村運動による沿線住民の灌漑用井戸の增强等の眞摯な增産政策が樹てられた。治安の回復とともに、この政策に從つて營々と勵んだ北支農民の努力は報いられて、昨年の棉花生産高は事變前の水準に近い成績をあげた。さらに現在の北支棉花栽培狀態を推し進めてゆけば、昭和二十五年にはこれまでのわが國棉花の全消費量を越える生産高に達する見込みであるといふことは盟邦として頼もしい限りである

今年はよく穫れたなあ！　こちらの部落や、あちらの部落から棉を賣りに來た農民は市場に屯して喜びを分ち合ふ ⇩

⇦ 集貨驛に山と積まれた棉花—火薬の原料となり、また温い純綿衣類となる

鐵路は山西

大陸建設も逞しく

北支鐵道の復興は軍の作戰と平行して占據地域の安定とともに完成し、新線の建設は戰火の餘燼消えやらぬうちから起工され、いまや北支、蒙疆の鐵道は延長約六千キロに及び全支鐵道の延長一万キロの六割を占めるに至つた。

現下、北支における産業、特にわが國を對象としての産業活動の中心は工業資源の活用である。工業資源といへば石炭、鐵、棉花、鹽など擧げられるが、何んといつても北支資源の大宗は

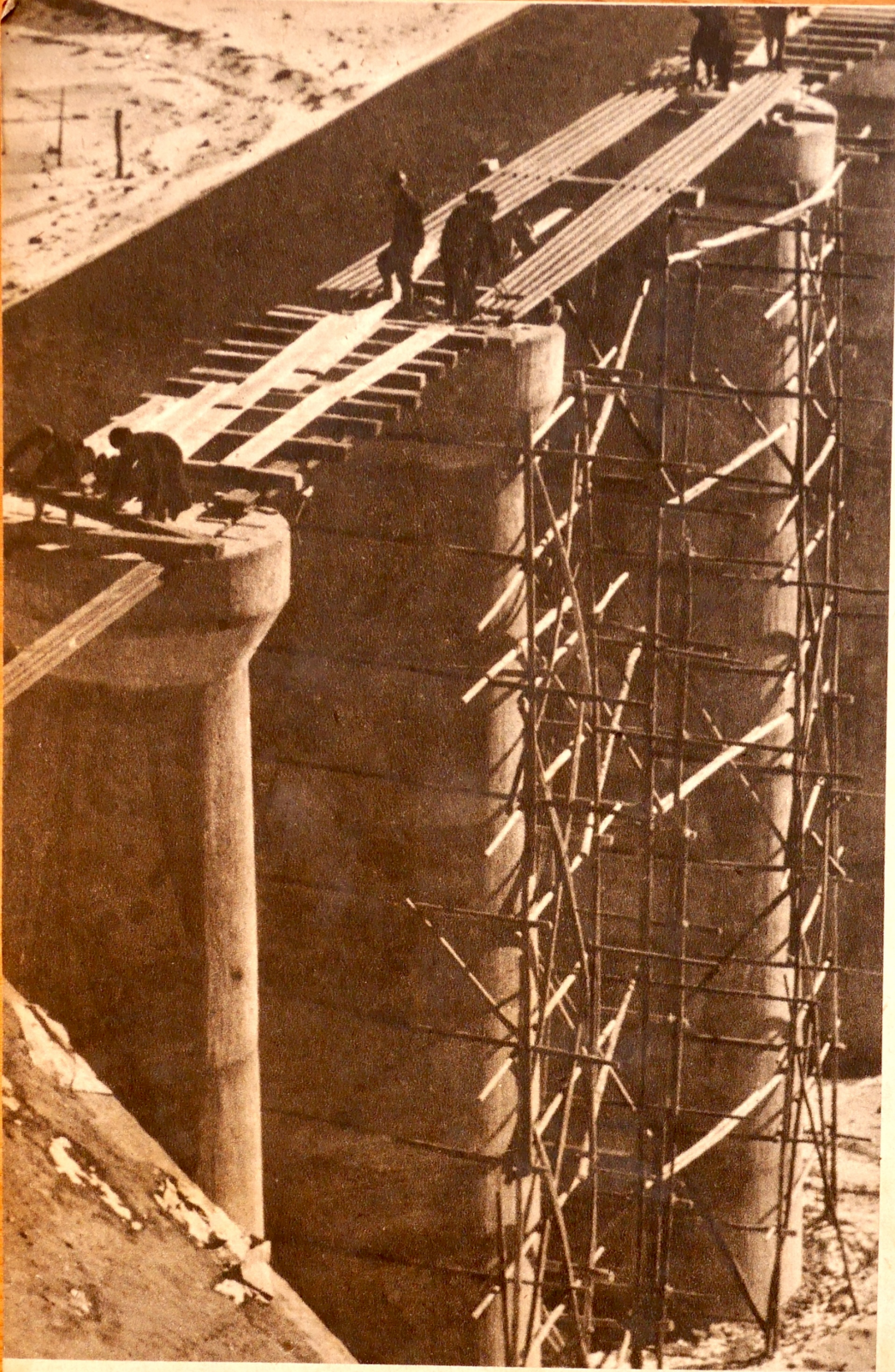
⇧山西の野は一面雪に覆はれた。この吹雪と鬪つてわが鐵道建設の測量は續けられる

⇦警備員は生命を賭して鐵路を護る

⇧ 難工事の架線も、わが世界に誇る鐵道技術で押しまくる

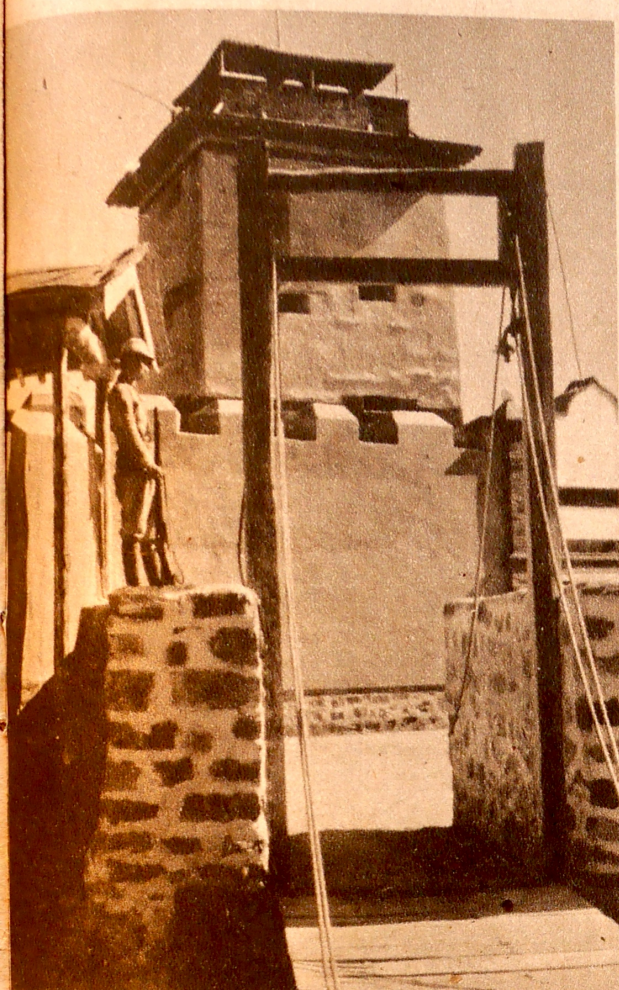
⇧ 山の切崩しもどん／＼と進む

⇨ 寒い野天ではあるが、轉轍手は笑つて白旗を振る

撮影　華北交通株式會社

9 雪を衝いて

石炭である。従つて北支に於ける鐵道と炭礦の開發は不可分の關係にある。主なものを擧げてみても京包線の大同石太線の井陘、京漢線の磁縣、津浦線の大汶口、中興、同蒲線の西山、隴海線の柳泉など十指に餘るものがある。そしていまなほ夜に日を次いで建設を急いでゐるものに同塘線がある。同塘線は大同と塘沽新港とを結ぶもので、この線が開通した曉には大同石炭の輸送に一新紀元を劃するものとして完成の一日も早いことが期待されてゐる

治安に自衛団必死の協力

⇧ 薊縣太現渠村を守る縣警備隊の望樓

⇨ 非常警鐘に驅け集る薊縣の農民

⇨ 三河縣農民で組織された自衛團、前列は紅槍隊

⇨ 警備道路に並んで造られる車馬道路—三河縣

⇨ 捕へられた八路軍工作員を訊問する縣警備隊

大陸建設も逞しく

撮影　北支軍報道部

今なほ米英の野望を悟らず、大東亞共榮のために戰ふわが眞意を解せず、徒らに米英の走狗となり果て、わが建設戰を妨げる重慶の狂亂ぶりは同じ東亞の民族としてみるとき憐れといふ外はないが、あくまでも支那大陸に新秩序を打ち樹て、建設戰を戰ひ抜かねばならない我々にとつては彼等との戰ひまた眞劍勝負である。大陸にあるわが將兵はあらゆる困苦を忍びつゝ繰り返し繰り返し敵の遊撃戰術に鐵槌を加へてゐるが、既に國民政府の治下和平建國の旗に打ち靡く幾多民衆はそれぞれ村に町に自衛團を組織して敵のゲリラ戰に備へ、わが警備隊に懸命の協力をつゞけてゐる。頑迷な敵が如何に盲動をつゞけようとも、わが將兵の撃たでは止まぬ闘魂と現地民衆の協力とは大陸に完全な新秩序を建設し終へるまで戰ひつゞけるであらう

×　×

饑餓に迫られながら山中深く立て籠つてゐた敵共產軍である冀東東部地區の八路軍第十三團は最近つひに農村の糧食を狙つて自暴自棄の攻勢を企て、卑怯な潜入遊撃戰をはじめたので、冀東各縣の自衛團は縣警備隊と一丸となり、わが掃滅戰に必死の協力を見せてゐる

前線假寢の宣撫行

北支派遣　原田金助

酷寒の嶮峻、熱砂、黃塵の野に轉戰して赤魔の地、蔣軍の眞只中に躍り込み、或ひは銃なき聲の戰士となり、或ひは筆執る戰士として愚かな民衆を說き、東亞再建に晝夜の別なく精進する報道宣撫の活動は、極めて地味ながら人知れぬ苦勞がある

當報道班も三浦班長を團んで、これが報道に、宣撫に、寧日がない。去る五月、勇躍山西〇〇より冀中地區に轉進し、共產溫床地帶に侵入して彷徨する民衆を宣撫し、華北再建を熱叫してゐる。その一つ二つ……

去る五月二十三日第六分區の敵四千を文字通り撲滅させてから、冀中軍區の遊動匪團は完全に河北中部の平原から姿を沒した。だが根强いのは愚蒙な民衆を驅りたてて築き上げたアミーバー的地下組織である。これを根絕しなければ匪民は永く隔絕され得ないだらう。匪區を分離して、百姓を再教育しなければ復興は望めない。こゝに匪區掃蕩直後の並々ならぬ苦勞がある。村々の壁に書かれた抗戰の文字を消し、或ひは和平建國のポスターを貼り、繪を畫き、宣傳文を大書してゆくのを手始めに、敵の空室清野の奸策に强ひられた部落を棄て、田野に彷徨する哀れな民衆を呼び集めて皇軍出師の眞義を說き、八路の奸惡を暴き、大東亞戰爭の眞相を說き聞かせる。それには矢張り音樂等の鳴りもの入りで紙芝居もやれば、掛合漫才もやらねば民衆は喜んで集つて來ない。故に日華報道班員はいづれも一致協力して、日夜倦むことを知らぬ宣撫行を繰返してゐる。また時には前線假寢の宿邊に民衆幹部を集め、或ひは班員等の座談會を催すこともある。今次冀中軍區掃滅作戰においても、工作宣撫の片時を利用して、殺伐な雰圍氣を淨化する座談會が三浦班長を團んで催された。その顏觸を擧ぐれば華人報道隊長韓樞斗（山西臨汾、明治大學卒もと民政府司法院第二課長）を初め紙芝居、講演、傳單貼付など民衆の宣撫に大童な宣傳部長申靜波（河南南陽、河南大學卒もと中央第三軍劇團少佐團長）演劇班長陳清擧（河南南陽もと九八軍中尉小隊長）工作班長揚松林（山西平遙もと決死第一縱隊付少尉）工作員李其美（山西絳縣もと山西保安隊第五區隊司令部幹部）および女工作員の趙鏡（山西五臺もと決死第一總隊看護婦長）王慈雲（河北宛平もと六九軍女工作隊員）陳惠軒（河北定縣もと小學校教員）等の華人班員である。三浦班長は常にわが子の如く熱意と愛撫の面持で班員を眺めながら、次ぎのやうに語つた

大體、中原會戰、沁源作戰の結果、初めてわが方に協力することゝなつたこれら班員は、現在こんなにまでよく大東亞建設の理想に燃え、班長の下、鐵石の團結を堅持し、着々と偉大な實績を擧げだしたことは喜びに堪へない……と感激の詞を述べると

韓隊長——團長を捕へたからといつて大した功績のやうにいはれてお恥かしい次第です。私は今まで山西の或る縣長をしてゐましたが、三浦班長以下の皆樣から、心の友人として親身も及ばぬ取扱をされて來ましたので、こんどこそ何かの形でご恩返しをしなければと張り切つて冀中まで來ました。團長どころか呂正操以下、冀中共產軍の全幹部殘らず槍玉にあげて、一日も早く華北の治安を確立し、ひいてはビルマの占領でいよ／＼促進されることになつた日華の全面和平を推進してやりたい氣持で一杯なのです……と謙遜しながらつゝましやかに語る

中部長——現今の混沌たる世相は、唐宋元明清等いつの時代の移り變り目にも免れ得なかつた必然的現象だ。時流に抗するものは結局、流されずにはおかない。重慶は勿論、この冀中の共產なども早々消えてなくなるべきものである……

趙さん——私は山西で夫に別れました。夫はまだ共匪に連廻されて山の中を彷徨してゐることでせう。芝居をやる時でも、歌を唄ふ時でも、私は共匪への呪詛で胸の中は煮えくり返つてゐます。河北の農民だつて同じ中國人です。何とかして一日も早く私達の努力で、彼等を共匪の僞瞞と壓制から解放してやらねばなりません

陳班長——冀中は共產軍の教育が相當深く民衆に喰ひ入つてゐるから、河南や山西よりは遙かにやりにくい。それ故に我々の宣傳もやり甲斐があるといふものです。確かな認識を得てどし／＼こちらの民衆に宣傳してやらねばなりません……と陣中炎暑の夜、庭に見る團欒は班員の語らひによつて明日への希望と理想とを深めて行くのであつた……

⇦わが守備隊を迎へる薊縣大現渠農民自衛團、いかにも强さうなわが勇士にすつかり信頼してゐ

粥をすゝつても

端境期に自家保有米供出

鳥取縣

⇦ 農事組合の常會を開いて、何とかして自家保有米を供出しようと眞劍な協議

⇨ 組合員は、三度の食事のうち一度はお粥にしてまでの、徹底した協力ぶりであつた

今年は天候にも惠まれ、且つ農家の人々の眞摯敢闘によつて、近年まれに見る豊作でした。しかし例年通り端境期には、どうしてもお米の出廻りが惡くなります。この困難な時期を乘り切るため、自家保有米まで供出して、政府の米穀對策に協力した鳥取縣西伯郡幡郷村大寺農事組合の美しい姿をお傳へいたします

同農事組合では、縣から端境期の政府供出米の割當がくると、一粒でも多くといふ意氣込みから、組合員がそれぞれ具體策を講じて、つひに自家保有米まで供出するに至つたのです。農家にとつて自家保有米の尊さは想像以上です。これに手をつける苦痛を押し切つて供出した同組合の壯擧は、あらゆる惡條件を克服して本年の豊作を獲得した農民魂に一層の光彩を添へるものでせう

二十三日の新嘗祭を中心に、一粒の米にも心から『勿體ない』の感謝を捧げる新穀感謝運動が行はれますが、わたしたちが喜びをもつて食膳に迎へる新米には、譬へやうのない農家の勞苦と、かうしたつきつめた協力のこもつてゐることを想ひ、運動の徹底を期したいと思ひます

撮影　石束長一郎

十二月の常會

大東亞戰爭一周年を迎へることになりました。今なほ胸に燃えたぎるあの日の感激と決意を新たにして、この常會では戰爭生活實踐の徹底を決意し、いよいよ米英擊滅陣を固めることにいたしませう

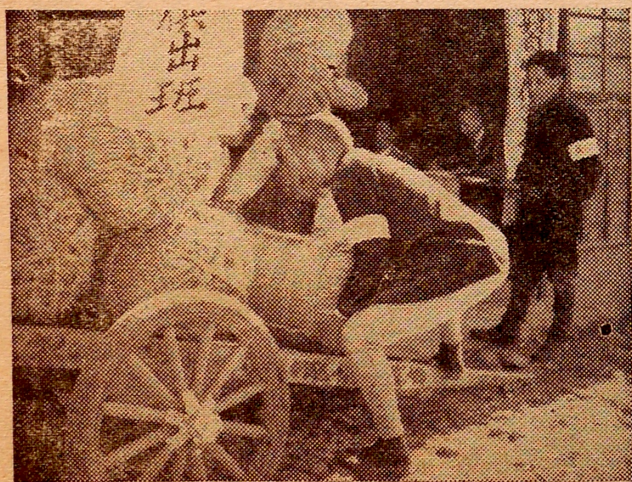
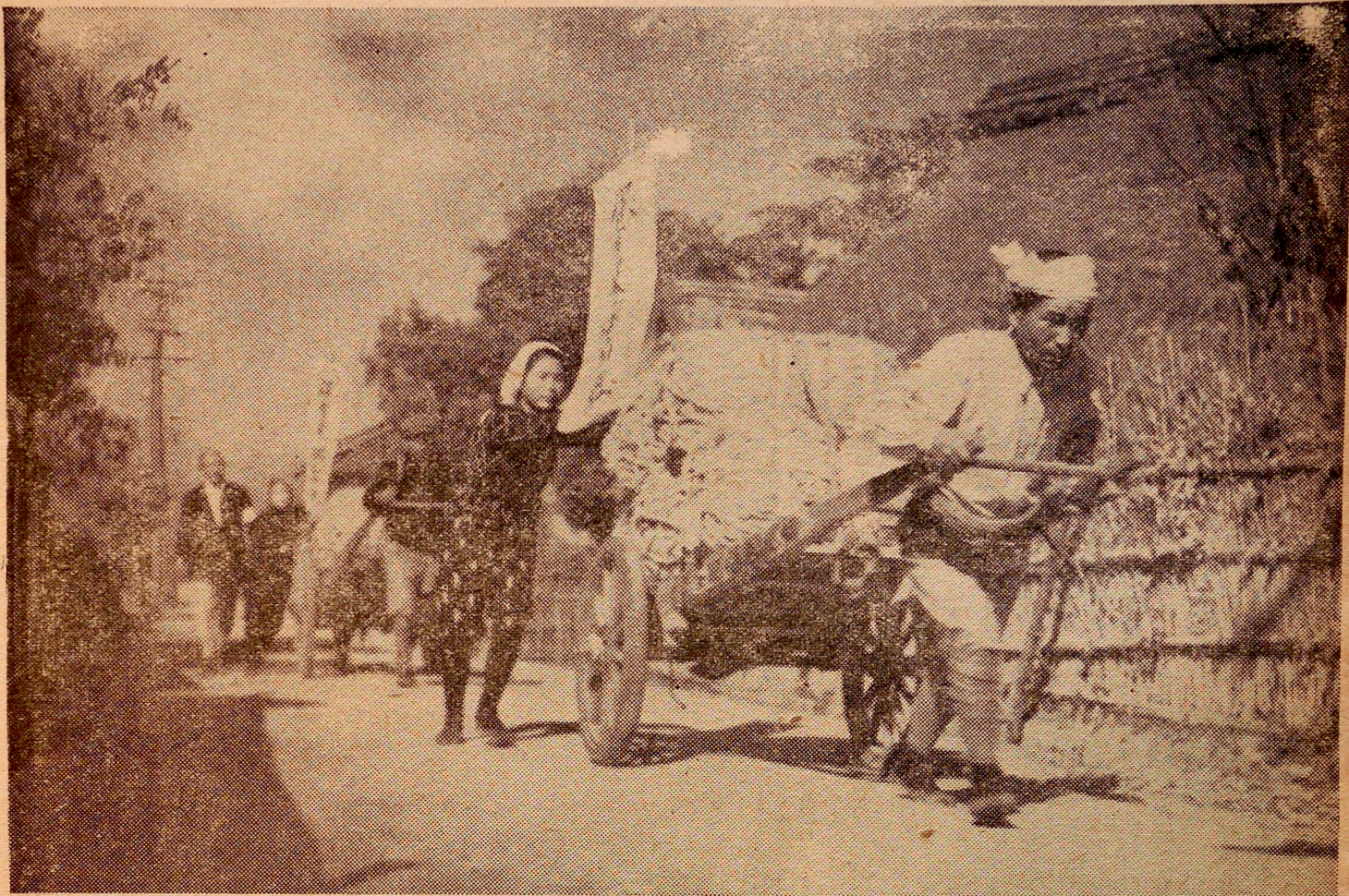
★十二月八日には

『帝國陸海軍は本八日未明……』あの大本營發表のラジオ放送をもう一度、耳朶によび起し

（一）早朝から各戸一齊に國旗を掲げませう

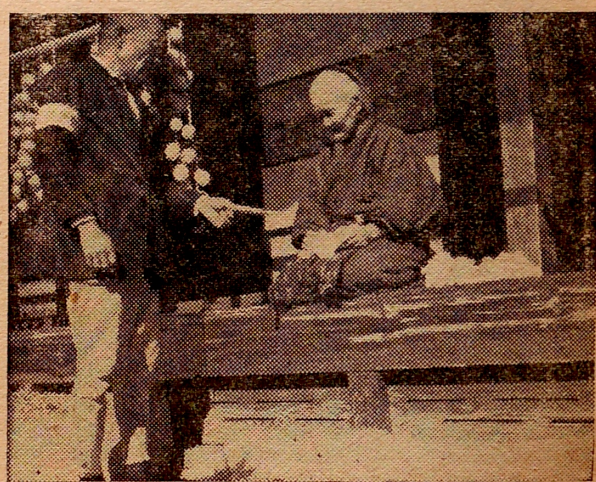
（二）午前十一時五十九分から正午まで全國民一齊に國威の隆昌、皇軍勇士の武運長久、英靈に感謝の祈念を捧げませう

（三）正午からラジオで大詔奉讀が行はれますから、隣組ごとに集つて謹んで拜聽いたしませう

（四）各神社で祈願祭が行はれますから、町内會、部落會、隣組等の代表者はこれに參列し、一般の方もできるだけ神社に參拜して必勝の祈願をいたしませう

⇨ 組合外の農家にも、組合の役員が出向いて、供出に協力してくれるやう、いろ／＼と説明する

⇧ 供出米の集荷には、全村の女子青年團が出動して奉仕した

⇦ 自家保有米供出班の小旗も誇らしく、縣の倉庫に搬入を終る

☆ 戰力をぐんと强化しよう

一 先づ貯蓄だ—戰力の强化には何をおいても先づ貯蓄だ

昨年はあの感激の日から月末までに『三十億貯蓄』をやりとげて、見事に目標額の百七十億に達しましたが、本年上半期の貯蓄總額は百九億で目標の半額に達してゐません。この不振を一擧に挽回して、本年の目標額二百三十億にぜひ漕ぎつけねばなりません。そのためにつぎのことを必ず實行いたしませう

（イ）大東亞戰爭一周年記念貯蓄として十二月中だけで『五十億貯蓄』を達成しよう

（ロ）國民貯蓄組合へは全國民必ず加入しよう

（ハ）賞與や歲末の臨時收入はできる限り貯蓄や公債消化にふり向けよう

（ニ）生活を最小限度に切りつめ、贈答や遊興をやめて、それだけ貯蓄を增加する工夫をしよう

二 增産に懸命の努力を傾けよう

米英は尨大なその資源と生産力をたのんで、對日反擊の時期を狙つてゐます。今日の戰爭が武力戰であると同時に生産戰爭であることはいふまでもないことです。より多くの武器を——より多くの食糧を——それが必勝の基礎となるのです。國防資材、造船に關係ある工場、鑛山その他各種の事業場に働く方々や、食糧增産に働く方々は一人々々が數百の敵に當る戰鬪力をもつて、敵の生産力を壓伏しようではありませんか

眼は見えなく

増產戰士に按摩さんの奉仕團——

⇨秦國民學校の長谷川先生はペダルを踏んで部落から部落へ奉仕員たちを運び、懸命の協力をした

⇨『真眼の士よ！……』と村民に挨拶する班長さん　撮影・吉田榮

われ〳〵はたとへ眼は見えなくともお國につくす眞心においては決して目明きの人達に負けない——と岡山縣下の按摩さん達は打つて一丸となり、主として縣下の無醫村や、農繁期の穫入れ時期をみては農村へ慰問の奉仕に出かけてゐます。この企ては昨年同縣大政翼贊會支部の庶務部長だつた杉山さんの肝煎りから實行に移されたもので、以來、無醫村などにおける奉仕團の人氣は大したものです

按摩さんの奉仕團は豊年滿作の吉備郡秦村に出かけ、食糧增產に挺身する產業戰士や、村内の老人たちに鍼やマッサージを施した上、村民に『この非常時下、お國を思へば私たち盲人でさへもぢつとしてをれず、かうして出馬しました。どうか具

三　固めよ空の護り

國土防衛は私どもに與へられた尊い任務です。これまでとてもぬかりはない筈ですが、去る日の米機の非道な空襲ぶりをはつきりと頭に刻みつけて、烈々たる敵愾心を燃やして常に防空陣を固め、防空資材の整備、點檢を怠らず、すはといふ時、不覺をとらぬやうに心掛けませう。また附近の防空監視隊の慰問激勵等を行つてその勞苦に感謝しませう

★　戰爭生活の實踐に協力しよう

一　配給消費の適正化に協力しよう

國内も戰場です。お互は戰友です。にも拘はらずこれまでは配給消費の方面では、未だ自分本位の態度を捨てきれない人も少くありませんでした。これは戰時生活の秩序を亂す意味で、敵性行爲だといひきつてもいゝでせう

今度、全國の都市の町内會には實情に應じて消費經濟部が設けられて、その下に小賣業者と消費者とが配給について互に相談し合ふ配給協議會が設けられ、この問題をすら〳〵と運べるやうにしていくことになりました。消費者たるわれわれも町内會や隣組を通じて進んでこれに協力し、次ぎの事柄を實行して戰爭生活の土臺を固めていきませう

（イ）賣る方も買ふ方も、互に戰友愛で結び合ひ、明朗な配給秩序を守つて、闇取引や不正の情實販賣、買漁り等の不德な行爲を絕對に無くしませう

（ロ）切符制や登錄制の配給がすらす

も と

岡山縣

眼の皆さんにおかれては一層のご奉公をお願ひします』と天晴れの挨拶を行つて村民の喝采を浴びました

肩や腰の不自由だつた村の老夫婦は鍼の奉仕を受け、サッパリした氣持で奉仕の按摩さんをもてなす⇩

⇦ 秦國民學校の講堂で行つた奉仕ぶり

ら行くやうに工夫しませう

（4）隣組の共同買出しで輪番制等を定め、各自の努力と協力で買物行列を解消しませう

（5）家庭生活をよく檢討してみませう。まだ〳〵無駄があります。お互に注意し合ひ、工夫を話し合つて戰時下にふさはしい消費生活の合理化をはかりませう

二 出征軍人遺族家族に絶えざる援護を

われ〳〵の町內會、部落會、隣組をごらんなさい。きつと二人や三人の出征されてゐる兵隊がをられることでせう。この方々に絶えず慰問文や慰問袋を送り遺族、家族の慰問や手傳ひもいたしませう。出征軍人の歡送はもとより、英靈の出迎へ、墓碑清掃、墓參等も缺かさぬやうに勉め、傷痍軍人をいたはりませう

三 戰時下の輸送力强化にも協力しませう

戰時重要資材や、生活必需物資の輸送は最も大事なことで、少しでも多く、少しも停滯しないやうに必要な方面に運ばれねばなりませんが、この輸送に當る重要な機關である汽車の輸送を强化するため、この際、遊樂や急がぬ旅行は絶對にやめ、託送荷物を極力自制して、少しでも多くの輸送力を重要物資の輸送に廻すやうにしませう。鐵道省では先頃から運轉時間の改正や乘車制限など、全面的な輸送陣の强化をはかつてをりますが、これらについても十分の理解をもつて出來るだけ協力するやうにしませう

× ×

今月は本年最後の常會です。お互に一年間の常會を顧みて、改めるべき點は速かに改めるやうにいたしませう

臺灣の志願兵訓練所

撮影　臺灣總督府情報課

⇦ 臺灣同胞の中から選ばれた特別志願兵は軍人勅諭を朗唱する。

明治五年、徴兵の詔を拜して徴兵令が施行せられ、國民皆兵といふ古の制度に復してから今年で丁度滿七十年を迎へた。この間西邊の事變や臺灣征討などをはじめ、日清、日露の兩役、滿洲、支那兩事變に遭遇しながら常に國民が擧國一致して兵役制度の眞價を發揮し、護國の大任に當つてきたお蔭で、わが國運の前途は實に洋々と拓けてきた。いままた大東亞戰爭を戰ひ、赫々の戰果があがる陰に、わが崇高なる兵役制度が極めて大きい力をいたし戰局に光明を與へてゐることは何人も疑ひを容れないところであらう

さらにまた戰爭下に迎へた徴兵制施行七十周年の意義ある年において、朝鮮同胞に對して徴兵制(昭和十九年)を施行することが閣議で決定され、臺灣同胞に對しては特別志願兵制度が設けられ、これら同胞に護國の大任を擔ふ榮譽を與へたことはわが徴兵制度の一大發展として特筆さるべきことである

⇨ 元氣一杯、力一杯潑剌と體力を練る志願兵

⇦ 國體の本義とは——書物に喰ひ入る臺灣青年の眼は眞劍だ

⇧ 敬禮の本義は—威勢よく上げる手に近衛士官は頼もしく[illegible]する
もう銃の支へもしつかりしてきた——捧げ銃の訓練
⇦ 常夏の太陽の下、訓練は續けられる

宗教が結ぶビルマ

ビルマ派遣軍
陸軍中尉　西山京作

ビッビッ、、、、、、ッと帛を裂くやうな薄氣味惡い機銃掃射は不意に頭上約百メートルに現はれた敵機の爆音と共に耳朶をつん裂いた。大きな圖體をしたものが蔽ひかぶさつて來る感じを受けながら、アッといふ間に周邊には掃射彈がブス〳〵と糸を引くやうに流れて行つた。ラシオを出發してビルマルートを緬支國境に向つて疾走してゐた自動車が、惰力を利用して道路を左に木立の草叢に這入つて急停止したのと同時である。敵機は山陰に遮蔽しつゝ低空飛行で近づいて來たらしく、爆音も機影も全く射擊を受ける直前まで認めることは出來なかつたのである。敵ながら勇敢にもたゞ一機で自動車縱列の中央附近を爆擊して飛び去つた

自動車が木立の草叢に這入るや、いち疾く飛び降りて、二、三回、橫に轉がりながら十數メートルも離れた岩陰に轉げ込むやうに隱れたビルマ僧は、敵機が上空に見えなくなると漸く神妙な顏をして岩陰から出て來た。ひどく驚いたやうな顏付がいかにもおかしかつたので、周圍の兵等をすつかり笑はせた。乾季のため半分ぐらゐ美しく紅葉したジャングルに蔽はれて起伏する山腹を、道路は縫ふやうに曲り廻つて走つてゐる

灼熱の太陽は照りつけて眩いばかりであるが、一步、木立に入れば、涼風が汗ばんだ肌に浸みて日本の秋晴れを思はせるものがある。よほど高原になつて來たためであらう

三月二十九日ラングーンを出發して以來、〇〇部隊と共に從軍して幾多の敵彈下、空襲下、敵中突破等の身に振りかゝる危險にも毫も精神的弛みもなく、むしろそれ等のためにかへつて意志がます〳〵堅固にさへなる緊張味を加へて、三ケ月に亘るビルマ作戰の間、主としてビルマ中、病魔の巢窟ともいはれるシャンステートにおいて皇軍の宣傳工作に率先挺身、協力一體となり、對敵對民衆宣傳に身の瘦せ細るが如き献身的な激鬪を續けて敢へて辭せず、徹頭徹尾奮鬪の二字につきるビルマ僧がある

空襲を受けて面喰つて兵に笑はれたビルマ僧こそその人で、名をウーサーデマといひ、プロームの生れ、若い頃僧侶となり、ビルマの國を廻り巡つて佛教のために献身して說教をしてゐる瘦身秀眉の三十五歲の熱血漢である。從軍前、彼には皇軍との間に一挿話があつた。〇〇部隊が泰緬國境を突破、ジャングルから這ひだして、敗敵を追つて一月〇日パアン附近に進出し、ビルマ服に便衣した將校斥候がパアン河渡河點附近に進出して對岸の敵情を搜索してゐたところ、途中で出會つたのがウーサーデマである。ウーサーデマは最初、將校斥候のロンギーの着方で日本軍なるを看破し、會話の結果、ロンギーの着方を教へ、對岸の敵情を報告、さらに偵察して皇軍の誘導を圖つたといふので同將校斥候より感謝狀をもらつてゐた

日頃から皇軍に好意を持つてゐた彼は、皇軍によるビルマ作戰が壓倒的優勢となるにおよび、ビルマを救ふものは日本なり、日本軍に協力してビルマの再興を圖らんと、二月〇日、矢も楯もたまらずパアンを通り掛つた〇〇部隊にその意中を告げ、誠心より出づる熱心な彼の言葉に動かされてラングーンに同行された

最初、世界地圖を見せられても、日本が何處か、英米がどこか全く知らないウーサーデマは世界の動きなど知る由もない。ラングーンにて皇軍の發行した新聞またはニュース等により一生懸命に勉强したのである。皇軍の指導に熱心な彼は、三月二十九日ラングーン出發以後も絕えず指導者の言を克明に覺えて、遂に一貫した燃ゆるが如き決意を以て自信に充ちてゐた。日本精神を表面的に握つた彼といへども、最早や、いづれのビルマ人よりも日本をよりよく知つた一人となり、皇軍の有力なる宣傳の一員となつて、ビルマ民衆に向つて叫んだのだつた。皇軍が進擊したばかり、未だ硝煙消えやらぬ街、昨日奪取したばかりの村、そして第一線部隊と共に入城した市において、大衆の面前に黃衣姿の彼の烈々たる叫びは、時には千餘に亘る民衆を沈默せしめ、烈々たる氣魄を以て『日本軍の眞意』を說き、『ビルマ作戰の意義』を說き、そして『アジアに對する英米の策謀』を論じ、眞にビルマ人の步むべき道を說き拓くのであつた

宗教的に結ぶ日本とビルマは大乘的、小乘的の小異はあつたけれど、佛教そのものに對する信仰心には何等かはるところはなかつた。そこに熱血僧ウーサーデマの絕叫が民衆を壓倒敬服せしめた原因があつた。背景に强力日本あり、叫ぶにビルマ人の最も敬信するビルマ僧ありといふわけで、民衆は僧の絕叫が最高潮に達するや、手を合はせ眼から眞劍な淚を流して拜むのだつた

『宗教が結ぶビルマ』である。ビルマ人は一度、僧侶が言つた言葉は金言の如く信じて疑はない。酋長であらうが誰であらうが、一度、ビルマ人にして僧侶の前に出づれば跪いて三拜して禮するのが常であり、またその通り實行されてゐるのは驚く程である

ときには數名のビルマ人を相手に、また時には途中の僧侶をバナナの木陰に集めて諄々として說く彼の顏は血に燃えてゐた。烈々たる氣魄に燗れたビルマ人は、光明の黎明を見出したかのやうに希望に燃えて皇軍に協力した

ビルマ作戰、否ビルマ建設の陰にかうした隱れたる戰士もゐることを忘れてはならない

故國とほく

――〇〇部隊の集ひ――

看護婦　藏田つま子

激戰の跡とも見えず海の面は夕燒雲の影をうつして

いたつきの篤きにあれどこの兵を逝かしてすまじ神よ護らせ

看護婦　池田桃枝

感激に胸せまりけり新領土マレーの子等が歌ふ君が代

墓標一基スコールに濡れてあり道の邊に誰か捧げし紅きカンナよ

故國への船路安かれと祈るなり還り行く兵の病衣の白さ

看護婦　金清さつ子

船出をば共にいたせし將兵と別れ惜しみつ旗振りに振る

船暈に臥して戴くおにぎりにみとりし兵を思ひ出せり

壮絶南太平洋海戰

⇧去る十月二十六日サンタクルーズ諸島北方で行はれた南太平洋海戰における彼我激闘の一瞬——向つて右は轟然火を吐くわが主砲、中央は交錯した彼我砲弾の光芒、左はわが必中弾を浴びて遁走する敵艦『火災を起しながら右に遁走を企つ』

撮影　宮川海軍報道班員

大東亞戰爭日誌

十一月

七日　⊙一、帝國海軍部隊は七月下旬以降十月下旬までに敵潜水艦二十一隻を撃沈、この間我が方船舶二十九隻、十二万二千五百トンを失ふ
二、帝國海軍部隊は右期間に敵船舶三十四隻、二十五万二千四百トンを撃沈、この間我が方潜水艦二隻を失ふ

十一日　⊙アリューシャン方面帝國陸海軍部隊は六月上旬諸要地占領以来緊密なる協同の下にこれを確保し、六月十二日以降十月三十一日までに敵機と八十一回に亘り交戰その三十二機を撃墜。我が方の損害、驅逐艦一隻沈沒、輸送船二隻大破、水上機十五機自爆及び未歸還、その他軍事施設に若干の損害あり

十四日　⊙**帝國海軍航空部隊は十二日晝間ソロモン群島ガダルカナル島所在敵艦艇、輸送船に對し攻撃を敢行、次いで同日夜半我が有力なる攻撃部隊はこれに肉薄突入し所在敵艦艇船舶の大半を撃破なほ熾烈なる戰闘續行中。現在までに判明せる戰果**
一、晝間航空部隊の戰果　撃沈、新型巡洋艦一隻（轟沈）、乙級巡洋艦一隻。大破炎上、輸送船三隻。撃墜、飛行機十九機
二、夜間攻撃部隊の戰果　撃沈、新型巡洋艦二隻（轟沈）、大型巡洋艦二隻、驅逐艦一隻。大破、巡洋艦二隻、驅逐艦三隻
三、我が方の損害　戰艦一隻大破驅逐艦二隻沈沒、飛行機十數機未歸還

十二月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

一　日▽第七回弾丸切手賣出
五　日▽七日まで大東亞戰爭第一周年記念戰爭生活確立運動
▽十一日まで同軍人援護運動
七　日▽第六回戰時貯蓄債券同戰時報國債券賣出
八　日▽大詔奉戴日
▽大東亞戰爭第一周年記念日　各戸國旗を掲揚し、大詔奉讀式、祈願祭、慰靈祭など各種の記念行事が全國に展開される
九　日▽十一日まで大東亞戰爭第一周年記念戰力（國民貯蓄、增産、防空等）强化運動
廿三日▽皇太子殿下第九回目の御誕辰を迎へさせらる
廿五日▽大正天皇祭

極寒敵中
一兵よく千に当る

太平洋に於ける頽勢を何んとかして挽回しようと米海軍は、第一次ソロモン海戰以來幾度かの反攻を企てたが、北方においても、六月七日わがアリューシャン諸要點の攻略以來、日本より受ける新たな脅威に、この北方の重大性を今更ながら認識して、これを奪還すべく屢〻その有力部隊を出擊させるとともに、殆んど連日のやうに數機または數十機の重爆擊機からなる編隊をもつて死物狂ひの反擊に出でつゝあつた

これに對しわが陸海軍部隊は、敵の陣中にも等しいこの地域において、寡兵ながら一兵よく千に當るの覺悟をもつて幾度かの敵襲を擊退し、六月十二日から十月三十一日までに交戰實に八十一回、その間敵三十二機を擊墜する戰果をあげたのである。このやうに同方面守備の任にあるわが部隊は、南方ソロモン海戰における輝く大戰果に呼應して、敵反擊の鉾先を見事破碎しつゝあるが、わが方においても驅逐艦一隻を喪失、輸送船二隻を大破、自爆、未歸還の水上機十五機といふ尊い犧牲を拂つたほか、軍事施設にも若干の被害を受けたのであつて、これをもつてみても同方面の戰鬪がいかに激烈であつたかは容易に知ることができよう

やがて內地にも木枯吹き荒ぶ冬がくる。われらは北方四千キロ、生きてゐるだけさへ困難な零下數十度の酷寒のなかに、言語に絶した戰ひを不斷に續け、敢然と北邊の守りにつくこれら勇士たちの勞苦を偲ぶとともに、いよ〳〵生産力を增强して敵米英を叩き潰すまで斷乎戰ひ拔かねばならない

⇨敵機の來襲に寸分のゆるみもなく對空監視に活躍する海の荒鷲

⇨北海の氣象は非常に惡い。濃霧にとざされ怒濤が狂ふのが北方である。わが海の勇士は變り易い氣象を測る

⇦わが軍に撃墜されたアメリカ御自慢の空の戦車コンソリデーテッドＢ二四型機の殘骸

撮影　勝俣海軍報道班員

⇦曉の爆撃行に身を切るやうな水洗しの寒さも忘れて爆彈取付に活躍する整備員

⇦餘裕綽々、戦ひの合ひ間に一服する海の若鷲

新生ビルマの放送車

⇨ かつて援蔣トラックの走りつゞけた道を街から村へ、新ビルマ建設を説きに進む

⇦ 『みんなそろつて新生ビルマのために働きませう』放送車はラングーン市内にびらをまいて走る

雨季のやうやく明けたビルマの街から村へ今日も放送車が異様な圖體をあらはすと、もう住民たちがわーつと集つて來る。去る五月ビルマ軍の作戰が終了すると、放送車は民衆宣傳の有力な動力として活潑な活動をはじめたが、とくに八月以來、バ・モ長官の下、新生ビルマ建設を力強く踏み出したビルマ人に對して、市場で、廣場で、校庭で、放送車のスピーカーは新生ビルマの意義をわかりやすく、力強く語り出した……

街や村へ入るとまづ傳單がまかれる。それには『みんなで新らしいビルマ建設のために働きませう』と書いてある。愉しいレコード放送が終ると道報班員は『皆さん、そのビラの意味がお解りですか？ それについて私がわかりやすくお話しませう、といつた調子で大東亞戰爭の意義や、共榮圈の一環としてのビルマの使命、建設のために働くことの悦びなどをやさしくきかせてゐる

⇨ 村の入口には早速ポスターが貼られる。遠くからもう子供たちが飛んで來た

⇦ 市場に入るとまづレコード放送が始まる。それに續いて誰にも解るやうにやさしく新生ビルマを話し出した

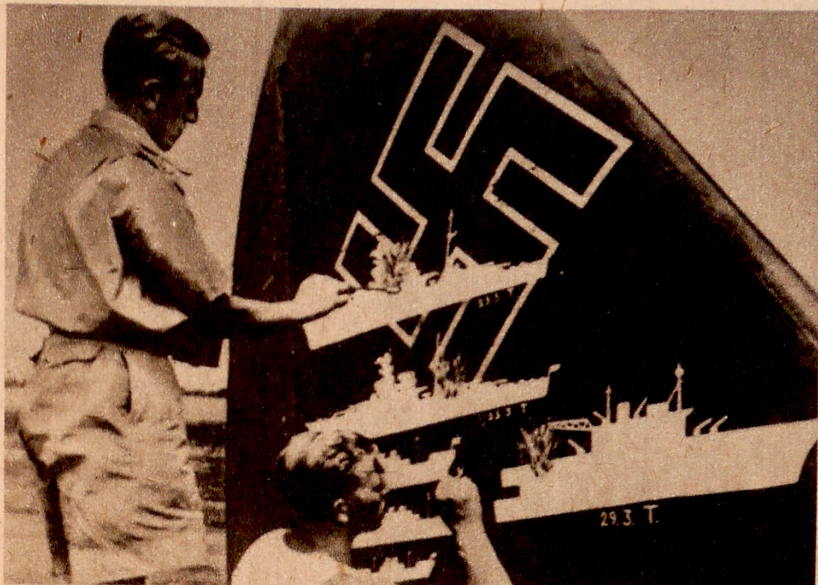
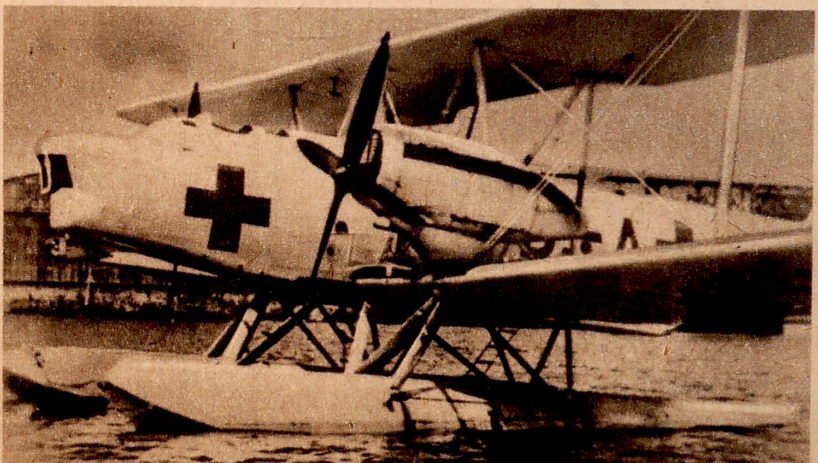
⇦ 楽しいレコード放送が終ると『バ・モ長官もいはれたやうに僕達こそしつかり働いてビルマ人のビルマにしようではないか』と報道班員の熱辯がつゞく

撮影　前田陸軍報道班員

⇦ 珠數と傳單を手に農夫の妻はなる程なる程といよ〳〵熱心にきゝ入る。

海外通信

佛領アフリカ防衛に起つた独伊軍

米英軍の不法極まりない佛領アフリカ侵入に對して獨伊は敢然その防衛に起つた。外電によれば米英は多數の護送船團を派して續々佛領アフリカ要地に兵力を揚陸し、佛領モロッコから、佛領アルジェリーへ、更に伊領チュエジアへ侵略の魔手を伸ばし、あはよくば歐洲本土を狙はうとしてゐるが、精鋭を誇る獨伊軍は陸海空から一齊に攻撃の火蓋を切り、到るところ戰果を擧げてゐると傳へられる

得意の急降下爆撃で仕止めた敵艦を尾翼に描く獨荒鷲

傷いた勇士を本國病院へ急送する伊赤十字機

北阿の沙漠地帶を急進撃する獨機械化部隊

國民映畫

國民映畫

『英國崩るゝの日』

大映作品

阿片戰爭以來英國が東亞侵略と搾取の基地として百年間その榮華を誇つてきた香港は、大東亞戰爭の緒戰において、果敢なる皇軍の進擊により一擧に潰え去つた。今や香港は、大東亞の香港として新生の歩みを續けてゐる。本映畫は香港攻略における皇軍の周到なる作戰計畫と、あらゆる勞苦奮鬪、そのかげにみる香港在留邦人の偉大なる犠牲的精神とを併せて描き、當時の國民的感激を再現したものである

大東亞戰爭一周年記念特輯倍大號發行のお知らせ

本誌の次號（十二月二日發行）は大東亞戰爭一周年記念特輯倍大號として發行致します。表紙は燦然たる東條總理の英姿を天然色で再現したもの、内容には陸海軍の儼乎たる備へとして航空母艦の全容、建艦狀況、戰車製造等、かつて見ざる寫眞の數々を、生產陣の活動面としては〇〇製鐵所、自動車工場、造船等からカメラの收めた驚異的な寫眞を、更に南方各占領地域において陸海將兵が如何なる生活を送つてゐるか、資源開發は、現住民の協力ぶりはどうであるかを眼前にありありと展開する豊富な寫眞を、また何んとしても勝ちぬかねばならぬ我々の所謂戰爭生活は如何にあるべきかを幾多の感銘を以て見るべき寫眞を掲載することになつてゐます。なほ右の他に軍備擴充に狂奔する米國本土の軍備地圖、南方共榮圏の資源の地圖、及び樞軸國、反樞軸國、中立國を明示する世界地圖の三大地圖を收錄致します。定價は**二十錢**です

週報 大東亞戰爭一周年記念特輯號發行のお知らせ

豫定内容

詔書

第一章　大東亞戰爭の現段階と今後の覺悟

第二章　大東亞建設の現況

一、總論　二、滿洲國　三、中華民國　四、ビルマ　五、マレー、スマトラ　六、香港　七、比島　八、ジャワ　九、セレベスその他海軍地區

大東亞戰爭小史

十二月二日發行

八十頁　定價十錢

復習室

本號からあなたは何を學んだでせうか？

1 世界第三位の棉花生產地は何處でせう？……（4頁）

2 いま北支で完成を急いでゐる鐵道に同塘線といふのがあります。これは何處と何處を結ぶものでせう？……（7頁）

3 棉は化學軍需品の原料としてなくてはならぬものです。何になるのでせう？……（5頁）

4 ガダルカナル島附近の戰鬪で擧げたわが海軍の戰果のうち擊沈した敵艦の數は――五隻？　七隻？　十一隻？　二十二隻？……（17頁）

5 十二月八日に國民誰れでもが行ふべき實踐事項四つとは？……（10頁）

6 北支がわが國の棉花全消費量を賄へるのは昭和〇〇年だといふ見込みです？……（4頁）

7 アメリカはアリューシャン方面のわが占領地を奪回しようと死物狂ひの反攻に出て空襲を――五日に一回の割合で？　二日に一回の割合で？　いや殆んど連日にわたつてやつて來？……（17頁）

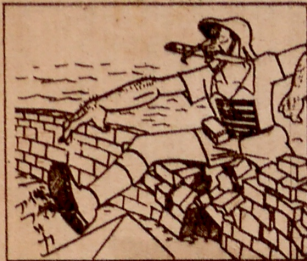
8 戰力強化だ、この十二月中には何が何でも〇〇〇圓の貯蓄を達成しよう……（12頁）

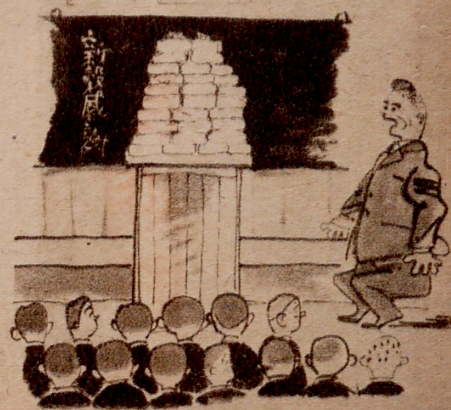
9 ガダルカナル島附近の戰鬪は――わが赫々たる戰果のうちに終了した？　いまなほ熾烈な戰鬪を續行中？……（17頁）

10 コンソリデーテッドB二四型機とは何處の爆擊機でせう？……（19頁）

一問十點としてあなたは何點でしたか？

照準器

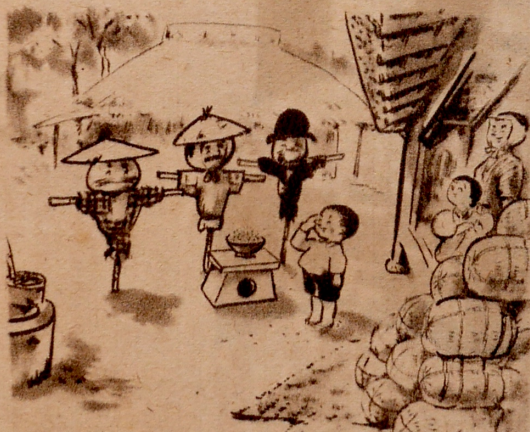
新穀感謝

⇨**新穀奉迎**　小泉紫郎

今日は神樣にお供へする新穀の配給日です。さア、隣組總出でお迎へしませう

⇧**僕たちの感謝式典**　森熊猛

『先生の机にこんなに辨當を積んで何事ぢやッ??』

『先生のも載せて下さい、新穀へ感謝を捧げたいのです』

⇧**お米の惠み**　小泉紫郎

『お百姓が汗水垂らして作つたお米は重いよ。我々も日の丸辨當でその重みの万分の一を味はつて戰かうぜ』

⇨**お百姓さん有難う**　南義郎

『この邊でどりや一服……』と腰をおろしたトタンに醒あり

⇧**お役目御苦勞さん**　杉柾夫

『君らのお蔭でこんなにお米が穫れたよ、有難う』

大東亞戰爭漫画日誌

石川進介

米軍佛領アフリカに押込強盗

タイ國の水害に救恤金五百万圓

フランス斷乎對米國交斷絶を宣言

金屬回收に壇天權銅像も應召

アリユーシャン來襲の敵機は焚火に

獨伊フランス領防衛に堂々進駐

本誌を戰地にお送りになる場合には送料は内地と同樣で帶封あるひは開封にして第三種と明記すれば、一部一錢、二部二錢です

申込所	定價
全國各地官報販賣所 書店・驛賣店 新聞販賣店 寫眞材料店	一部十錢（送料一錢） （外國郵送に依る地域は送料共一部十九錢） ▲豫約配送御希望の方は一部十錢（送料一錢）の割合を以て前金を添へ御申込み下さい ▲特大號の場合は其の都度御拂込金より差額を申受けます

寫眞週報（禁轉載）

昭和十七年十一月廿五日印刷發行

編輯者　東京市麴町區永田町一ノ一　情報局

印刷者 發行者　東京市麴町區大手町　内閣印刷局

★表紙

防具もぴつたり身について來た。腹の底から迸りでる氣合にも、昔とは見違へるやうな强さと張りが備つてゐる。同胞の迷夢を破り、中華復興、東亞保衛へ、大きな使命を帶びて生れ變つた中國の軍隊は皇軍の懇切な指導と猛訓練で日々逞しく成長していく

撮影　華北政務委員會情報局

寫眞週報　昭和十三年二月十二日　第三種郵便物認可　昭和十七年十一月廿五日發行（毎週一回水曜日發行）　第二百四十八號

貯蓄戰でも米英打倒

20億

貯蓄完遂

長期貯蓄に
生命保險
徴兵保險

國民貯蓄局
生命保險統制會

内閣印刷局印刷發行

（本書の大きさは國定規格A4・〔週報倍判〕）